

求人情報からみた図書館職員に求められる知識・技能

松本直樹 (慶應義塾大学文学部)

matsumoton@keio.jp

図書館職員の養成教育と現場で実際に求められている技能、知識、態度 (SKA) にはギャップがあると考えられる。本研究では、図書館の求人情報を調査し、求められている SKA を明らかにする。日本図書館協会のウェブページに掲載された求人情報を調査した結果、「利用者サービス」「テクニカルサービス」など図書館情報学教育で学ぶ事項が多く記載されている一方、「一般的 IT スキル」なども見られた。求められる SKA は館種、任用・雇用形態により違いが見られた。

1. 問題関心

本研究では、図書館の職員募集の際、どのような技能、知識、態度 (SKA) が求められているのか、を明らかにする。

日本においては、図書館職員の養成教育として、図書館法に基づく司書 (補)、学校図書館法に基づく司書教諭および学校司書が制度化されている。こうした図書館職員養成教育の課題は多くあり、求められる技能等も調査されてきたが¹⁾、養成教育と実際に求められている SKA とのギャップも課題の一つに挙げられる。ギャップの存在、その内容が明らかになることで、司書課程を含む図書館情報学教育のカリキュラム開発、さらには継続教育のあり方にも役立てることができる。

このギャップを調べるためにはいくつかの方法が考えられるが、採用に関わる情報を調べることはその有力な方法の一つである。採用に関わる情報には、図書館が重要と考える技能等が記載されていると考えられるためである。こうした採用に関わる情報は求人情報と呼ばれている。本研究では、この求人情報に注目し、どのような SKA が求められているのか、を明らかにする。

2. 図書館職員の求人情報に関する文献

近年の図書館の職員採用、求人情報に係る文献として以下がある。

まず、文部科学省生涯学習政策局社会教育課

(2007)の報告書²⁾によれば、司書有資格者を特別職として採用している基礎自治体は全体の 4.6% に過ぎない。また、図書館勤務経験のない司書有資格者を専門職として配置する場合に期待する技術・能力としては、基礎自治体では「図書・資料の選択能力」「利用者への対応」「レファレンスサービスの能力」などが多い。

近畿地区図書館学科協議会(2007)³⁾は、近畿地区大学・短期大学の図書館職員の採用について調査を行い、司書有資格者採用時に最も重視する要件として、実務経験、コミュニケーション能力、専門知識を挙げている。また、公募時に、『図書館雑誌』を用いたのは8件であったのに対し、大学HPは38件もあったという。

福永等(2013)⁴⁾は愛知県、岐阜県、三重県の基礎自治体における公立図書館、学校図書館の司書採用の調査をしている。そこから、直営図書館の専任司書採用は一般行政職枠で行われることが多いこと、非常勤採用では2/3が司書資格を必要としていること等を明らかにしている。

米谷(2016)⁵⁾は学校司書を対象に、日本図書館協会のメールマガジン等職員募集の記事を分析している。調査事項は職名、待遇等とともに、職務内容であり、職務内容に関しては、「貸出」「返却」が最も多かったとしている。

以上から推測されることとして、求人情報は多様なルートで流れていること、専任職員のうち専

門職の採用は限定的であること、などが挙げられる。求められる SKA としては、基本的な図書館に関わる業務処理能力の他、実務経験、コミュニケーション能力など幅広い。どのような SKA が求められているのかについて、館種横断的な検討が不足していることも確認できた。さらに、任用・雇用形態による違いも明確でないことが分かった。

3. 研究方法

3.1. 研究目的

本研究では、①職員募集の際にどのような SKA が求められているのかを明らかにする。併せて、そのことについて、②館種による違い、③任用・雇用形態による違い、も明らかにする。

3.2. 情報源

情報は日本図書館協会のウェブサイトで公開されている「図書館職員求人情報」から取得した。取得期間は 2019 年 3 月から 2021 年 1 月までにウェブページに掲載されたものである (JLA メールマガジンの No.938~1027)。なお、この期間に掲載された情報は 570 件であるが、一部見落としにより実際に取得したのは 545 件 (95.6%) である。「図書館職員求人情報」には地域ごとにデータが掲載されており、応募締切日をすぎると削除される。掲載情報は、機関名、業務内容、雇用期間、待遇、応募条件等である。掲載条件として、応募資格に「司書有資格」があることと、正規職員を原則とし非正規の場合は週 30 時間雇用が必要とされている。司書資格を条件としていること、求人情報は多様なルートで流れていることを踏まえると、掲載されているのは求人情報の一部であることに留意が必要である。求人情報の中には、詳細を自治体ウェブページに掲載しているものもあるが、そこまでは追わなかった。

3.3. 取得データと分析方法

取得したデータは、館種、必要な資格等、無期・有期の別、応募条件 (望ましいも含む)、業務内容等である。応募条件、業務内容については、Mary

Ann Kennan 等(2006)⁶⁾を参考に表 2 のような 16 のカテゴリを設定した。これらは、今回収集した求人情報の「応募条件」「業務内容」を踏まえて一部修正している。新たに追加したカテゴリには注を付している。また、求人情報に実際にあった語は右側の「求人情報中の語 (例)」に例示した。さらに、Kennan を参考に、16 カテゴリを、①図書館情報学 (LIS) 固有の技能知識 (SK)、②一般的な技能知識 (SK)、③対人スキル・行動特性 (ソフトスキル) の 3 つの大カテゴリに分けた。なお、求人情報には「図書館業務全般」「司書業務」のように特定の SKA に言及していないもの、あるいは言及していても、例示に留まるものがあった。後者の場合は例示されたものだけを採用した。

4. 調査結果

4.1. 調査結果の概要

取得した求人情報は 545 件であった (募集人数は 1,161 人 (推定値))。館種、無期・有期の別 (比率含む) は表 1 のとおりである。

表 1 取得したデータの概要 (件数)

館種	件数	比率	無期	有期	無期比率
公共	245	45.0%	77	168	31.4%
大学	207	38.0%	10	197	4.8%
学校	35	6.4%	4	31	11.4%
専門他	58	10.6%	6	52	10.3%
合計	545	100%	97	448	17.8%

全体として、求人情報は公共図書館と大学図書館が多い。学校図書館は 6.4% と少ない。有期・無期に関しては有期が多く、特に大学・学校・専門図書館他は無期が 10% 程度又はそれ以下である。公共図書館は無期が 3 割と比較的多い。必要あるいは望ましい資格・免許としては、自動車運転免許 32 件、司書教諭 31 件、学芸員 5 件、デジタルアーキビスト 2 件である。ここでは司書 (補) 資格はのぞいている。アーカイブなど関連領域の資格はほとんど記載されていない。

4.2. 記載の多い・少ない SKA

16 カテゴリに 1,603 の SKA を分類した (表 2)。多かったカテゴリは「利用者サービス」「一般的 IT スキル」「テクニカルサービス」「図書館勤務経験」

(以下「経験」「庶務・管理」であった。一方、少なかったカテゴリは「ウェブデザイン・メンテナンス」「図書館マネジメント」「利用教育」「図書館システム」「アーカイブと記録マネジメント」などであった。基本的な図書館の職務領域は多い一方、専門性の高い職務、周辺領域、マネジメントなどは少なかった。大カテゴリでは、①と②に高順位が多かったが、③も中位にあった点は注目される。

カテゴリの共起情報を用いてクラスター分析(ワード法)を行ったところ、①即戦力(一般的ITスキル、経験)、②利用者サービス、③庶務・管理、④テクニカルサービス、⑤コミュニケーション関連スキル(対人スキル、行動特性、語学、レファレンスサービス)、⑥その他、に分けることができた。⑥その他には図書館関連のデジタルスキルが多く含まれている。

4.3. 館種による違い

公共図書館では求められるSKAの数は大学図書館等と比較すると少なかった。その中で相対的に多かったものとしては「図書館マネジメント」を挙げられる。これは、新たな図書館設置に際して職員募集が行われたことと関係していると思われる。「語学」「電子リソース」「対人スキル」などは少なかった。

大学図書館では多くのSKAが記載される傾向があった。目立つものとして「語学」を挙げられる。求められる言語はほとんどが英語であった。他に「経験」「一般的ITスキル」「対人スキル」も多い。「経験」では特にNACSIS-ILLなどの経験を求めていることが多かった。一方、「図書館マネジメント」は少ない。

学校図書館では公共図書館同様、記載されているSKAは少ないが、その中では、「所属組織支援」「対人スキル」が比較的多かった。専門図書館他は、大学図書館同様、SKAの記載が多く、その他の点でも類似の傾向が見られたが、「アーカイブと記録マネジメント」「行動特性」が多い点で異なっていた。

4.4. 無期・有期による違い

無期の募集で多かったのは「図書館マネジメント」である。これは、公共図書館で新館準備のために正規職員を採用していたことと関係していると考えられる。また、表2には示していないが、「全般」も多かった。特に無期は97件中70件(72.2%)であることから、無期は特定職務ではなく図書館の職務全般を予定して任用・雇用される傾向の強いことが分かった。逆に有期で多かったのは、「テクニカルサービス」「経験」「一般的ITスキル」「利用者サービス」であった。

5. 考察

調査結果を研究目的の①から③に沿ってまとめる。①職員募集の際にどのようなSKAが求められているのかについては、全体として「利用者サービス」「テクニカルサービス」など図書館情報学教育で学ぶことが多く求められていた。しかし、それ以外に「一般的ITスキル」「経験」「庶務・管理」も求められていた。これらは図書館職場に限らず一般に求められるSKAといえよう。

②館種による違いについては、公立図書館では「図書館マネジメント」が、大学図書館では、「語学」「経験」などが目立った。また、後者は他に「対人スキル」を求めることも特徴的であった。専門図書館他では、「アーカイブと記録マネジメント」が相対的に多かった。また、「行動特性」が多い傾向にあった。③任用・雇用形態による違いとしては、無期職員の場合、「図書館マネジメント」が多いのと、特定の職務を明示しない形での求人が多かった。

以上の結果から、図書館情報学教育への示唆を考える。なお、今回、得られた求人情報の82.2%が有期雇用であったが、そのことはここでは考慮に入れていない。まず言えることとしては、図書館情報学固有のSKには強く求められているものと、そうでないものに明確に分かれていることが分かった。「利用者サービス」「テクニカルサービ

ス」「レファレンスサービス」などは上位であったが、「図書館マネジメント」「利用教育」「アーカイブと記録マネジメント」「図書館システム」は下位であった。記載の少なかったカテゴリは実際に求められていないのか、求められているが採用段階では求められていないのか、については今後の考究が必要である。

次に、「対人スキル」「行動特性」の重要性が確

認された。ソフトスキルともいわれるこれらの側面は、これまでも司書課程向けのテキストで図書館職員に求められる態度、心構えとされてきたが、そのことを改めて確認することができた。

最後に、「庶務・管理」「一般的ITスキル」「語学」などの「一般的なSK」の記載の多いことが分かった。エンプロイアビリティを高めるこうしたSK獲得の支援のあり方は今後の課題であろう。

表2 カテゴリごとのSKAの出現回数

大カテゴリ	カテゴリ	求人情報中の語(例)	出現回数	順位	公立	大学	学校	専門他	無期	有期
L I S 固 有 の S K	利用者サービス	奉仕, 閲覧, 貸出し, 返却, 資料提供, カウンター, 窓口, 排架, 書架整理, 複写サービス, 図書館行事, イベント, 展示, 講座, 読書活動, 読み聞かせ, ブックトーク, お話会	299	1	122	133	11	33	17	282
	レファレンスサービス	相談, レファレンス, パスファインダー, eレファレンス, 情報検索, 調査支援	92	6	35	39	2	16	6	86
	利用教育	利用者講習, 利用者ガイダンス, 情報リテラシー, 調べ学習, 探究学習, オリエンテーション	18	14	3	12	2	1	4	14
	テクニカルサービス	発注, 収集, 整理, 受入, 書誌, 目録作成, 分類, Nacsis-cat, 保管, 資料管理, 装備, 逐刊業務, 蔵書点検, 製本, ILL, 相互貸借, 書店対応, 資料移動, 除籍	276	3	87	136	5	48	20	256
	図書館マネジメント	企画, 管理責任, 計画立案, 広報, 新図書館建設準備	12	15	11	1	0	0	7	5
	図書館システム	図書館システム	19	12	3	12	1	3	1	18
	電子リソース	電子ジャーナル, データベース(DB), 電子書籍, 機関リポジトリ	33	11	2	15	3	13	5	28
	アーカイブと記録マネジメント	デジタル化, アーカイブ, 写真, くずし字, スキャン, 近世資料, 古文書	19	12	6	0	0	13	0	19
	図書館勤務経験 ¹	経験者, 勤務経験, 業務経験, 実務経験	236	4	37	148	15	36	16	220
一 般 的 な S K	庶務・管理 ¹	事務補助, 一般事務, 総務, 経理, 予算, 会計, 伝票処理, 電話対応, 統計, 委託管理, 見学者対応, 施設管理, ボランティア対応, シフト管理	100	5	24	49	4	23	9	91
	語学 ¹	英語, 語学, 独語, フランス語, イタリア語, 中国語, 朝鮮・韓国語	45	9	2	34	1	8	3	42
	一般的ITスキル	パソコン(PC), コンピュータ操作, MSオフィス, ワード(Word), エクセル(Excel), パワーポイント(PowerPoint), アクセス(Access), 一太郎, メール, 情報技術者	281	2	67	156	17	41	7	274
	ウェブデザイン・メンテナンス	ホームページ, ウェブサイト	6	16	3	3	0	0	0	6
	所属組織支援 ¹	教務, 学部事務, 学校行事, 入試, 卒業式, 入学式, オープンキャンパス	42	10	7	25	7	3	11	31
ソフト スキル	対人スキル	コミュニケーション, 協調, 協力, 意思疎通, ホスピタリティ	54	8	6	35	4	9	5	49
	行動特性	熱意, 一生懸命, 意欲, 元気, 興味, 丁寧, 慎重, 責任, 明朗, 明るく, 柔軟, 服務規律, 誠実, 地道	71	7	24	24	6	17	8	63
合計	—	—	1603	—	439	822	78	264	119	1484

注1 Kennan, Mary Ann et al. (2006)にはないカテゴリを表す。

【注・引用文献】

- 1) 上田修一研究代表, 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究(平成15年度-平成17年度). 2005, 456p.
- 2) 文部科学省生涯学習政策局社会教育課. 図書館職員の資格取得及び研修に関する調査研究報告書. 2007, 229p.
- 3) 近畿地区図書館学科協議会大学図書館職員採用等に関する実態調査グループ. 近畿地区大学・短期大学における図書館職員の採用等に関するアンケート調査結果の概要について. 図書館雑誌. 2007, vol. 101, no. 2, p. 108-111.
- 4) 福永智子, 山本昭和. 愛知・岐阜・三重県下の自治

- 体における司書採用の実態: 公立図書館および学校図書館の職員について. 中部図書館情報学会誌. 2013, no. 53, p. 35-59.
- 5) 米谷優子. 「学校司書」雇用の課題: 公立及び市立校の学校司書募集記事から雇用の課題を再考する. 第64回日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2016, p. 75-78.
 - 6) Kennan, Mary Ann et al. Changing workplace demands: what job ads tell us, Aslib Proceedings, vol. 58, no. 3, 179-196. 2006.